

囲碁愛好会 「柚木功先生を偲ぶ会」

世話人 山本武夫

平成 27 年 8 月、富山県歯科医師会囲碁愛好会の師範代として、会員の指導を長い間して頂いた、入善町の柚木功先生が亡くなられた。早いもので、もうすぐ 3 回忌となるにあたり、休会中のメンバーが久しぶりに小生の実家（南砺市谷：権次郎の館）に集まって、故人の遺徳を偲んだ。先生の囲碁の実力は、県内のアマ囲碁大会で優勝し、全国大会の出場経験もあり、1997 年（平成 9 年）に富山県囲碁師範に允許された。

囲碁愛好会の結成には、先生と小生が深くかかわりあったので、少し触れたい。当時、県歯小児・学校歯科保健部担当理事をしていた小生が、平成 6 年新たに部員を探している時に、歯科医師会の仕事はあまりしていないが、頭がよく、囲碁の実力が県のトップクラスという柚木功先生の話聞いた。「一芸に秀でるものは、他芸に通ず」の諺とばかりに、先生を口説き、部員になってもらった。実は、その数年前から、小生は新たな趣味の囲碁ブーム、特に武宮正樹本因坊の「宇宙流」にハマりだしたところだった。そこで、部会の度に、終わってから囲碁の話をするのが楽しみで、そのうち、柚木先生を囲んで歯科医師会に囲碁の会を作ろうということになった。

その話がだんだん拡がり、平成 7 年 2 月に県歯会報の折り込みに、今村勝彦・釣谷東民・山崎宣夫・上田昌・石崎護・岩崎弘治・柚木功・山本武夫（敬称略）の発起人名で、「囲碁愛好会（仮称）発会のご案内」を流した。その後、古田医薬大教授・中島忠一・川口義治・石川哲夫・森永丈策・和田敦志・星野照宗・焼田志図夫・岩井輝雄・柚木邦夫・内田保博・小竹彌・片山浄慧・小泉明久（敬称略）の参加の意思を頂き、今から 22 年前、同年 4 月 4 日（火）富山県歯科医師会館で、今村勝彦先生を初代会長として発会式を行った。…その後、田中貢・北山善之進・山田正昭・野田孫就・石森幹淑・姚立（医薬大）・笹木昭夫（歯科商店）・野口誠富大教授が参加された。小生の手元に、夕刊囲碁欄（当時の北日本新聞）の連載に「歯科医師会囲碁愛好会発足記念大会」記事として、柚木功先生自らの、古田勲教授（当時）の対局を解説し、会発足の嬉しさを交えて、投稿しておられるものがある。

会の活動は、石川県・福井県の歯科医師会囲碁同好会との親善囲碁大会を 3 県持ち回りで開催、その後約 15 年続いた。また、日本棋院富山県支部連合会主催の「ビッグ碁」に団体出場したりした。平成 10 年第 5 回大会では、E クラスで団体優勝（監督：柚木、選手：野田・石森・山崎・笹木・岩崎）した。この優勝記事は、県歯会報平成 10 年 9 月号に、「何で優勝？」と岩崎先生が報告しており、先日読んだが懐かしい。発足当時、医師会の囲碁愛好家との交流も企画をされ、当時学校保健会会長の船崎嘉一先生との交流会を持たせてもらった。恒例の夏季研修会（1 泊）は、囲碁愛好者ならお馴染みの、新湊の割烹旅館「八峰」が定宿で、ご主人石黒繁さんの魚尽くしのお料理とお酒をつまみに、囲碁を楽しんだ。石黒さんは、県アマ高段者で、いつも私達の相手をして下さった。そこでは、藤沢秀行から、趙治勲、林海峰、など当時の有名棋士の話題がボンボン飛び出してきて、ホントに楽しい。また、折角研修会をするなら、柚木功先生と八峰さん（我々は、石黒さんと呼ばな

い) から、指導碁を計画しようということを提案され、日本在住中国人女流棋士の指導碁を仰ぐことになり、劉波さんを招聘した。北陸三県で、当県が当番のときにも呼んだことから、縁があって、石川県や福井県で親睦大会をする際にも、劉波さんが数年連続して指導に来て頂くことになった。

その後、北陸三県の交流は、石川・福井両県の先生方の高齢化や活動休止の流れを受けて無くなり、当県でも、回数を減らさざるを得なくなった。その原因は、小生が富山県歯科医師会小児・学校歯科保健担当を辞職し、柚木功先生と部会での繋がりを絶ってしまったこともある。また、聞くところによると、先生の多芸の幅が広がって、とことん追求する奥義を極める趣味を見つけられたこともある。一時期、海外往復が多く、連絡をとれにくいこともあった。それでも、年に何回かの囲碁の研修会の打ち合わせや、小生の富山むし歯予防フッ素推進市民ネットワークの誘いには、必ず連絡を取り合え、参加も頂いた。

近年は、温泉に凝って、県内外で、湯を楽しむ話を伺えた。病気になられたという話もお聞きして、電話で話しても、全然心配ないですと、こちらに心配をさせないように努めておられた。囲碁愛好会の最後になった企画も柚木功先生自らが、長野に良い温泉があるということで、お任せしたら、当時元気だった砺波の石森先生と話をし、指導碁に二人の師匠、北陸のアマトップの高林恭平先生を招聘、新布石発祥の地、長野渋温泉峡の「地獄谷温泉」に行くことになった。八峰さんのマイクロバスで、台風の豪雨の翌日、歩いてしか行けない宿に行き、窓の外に、すぐそばの「野猿公苑」のニホンザルが顔を出すという、普通なら経験できない研修会になった。

今回の「柚木功先生を偲ぶ会」は、先生と一番親交を深めさせて頂いた小生が、研修会をたびたび開催した井波で開こうと有志に相談し、囲碁愛好会ではよく世話になった井波の吉村さん（トップアマ）や新湊の八峰さんもお招きして、開催した。奥様の玲子先生や、弟の柚木透先生（医師）、叔父の柚木邦夫先生、古田勲先生、2代目会長の石川哲夫先生、山崎宣夫先生、岩崎弘治先生、焼田志図夫先生、小竹彌先生が小生のリフォームした実家（権次郎の館）にお集まり頂き、近所の浄教寺住職（高瀬顕正師）の正信偈、阿弥陀経のお経と法話を頂いて、その後は、柚木功先生の遺影を前に、碁会を始めた。昼食をはさんで、夕方4時過ぎまで、久し振りの碁を楽しんだ。奥様から、功先生の遺品（碁石、碁笥、色紙や囲碁書籍）を頂き、皆で形見分けをさせて頂いた。

最後に、休会中の囲碁愛好会について、今後を話し合った。それぞれが高齢化、集まる機会もなかなか得られず、残念ながら、今回の師範代の柚木功先生の偲ぶ会をもって、解散することに決した。既に故人となられた多くの先生には哀悼の意を表するとともに、以前から、この囲碁愛好会にお世話頂き参加されなかった今村勝彦初代会長はじめとする多くの会員の先生方にも御礼を申し上げ、この記事で報告させて頂くことをご容赦願いたい。

最後に、もう一度、柚木功先生のご冥福をお祈りして、筆をおきたい。

故 柚木功先生 御命日：平成 29 年 8 月 21 日 享年：五九歳

法名：功德院釋遊石